

講義名	投資戦略論				授業形態	
担当教員	小笠原 宏	開講期・曜日・時間		前期 火曜日 3 時間		
		単位数	2	履修開始年次	3 年生	ナンバリング・コード

主題と概要

より実り多い経済生活のためにも個人（家計）の資産運用の必要性は高まっている。合理的な「投資行動」のためには金融証券市場を念頭において、何に投資をするべきか考察し決断するための分析力と決断力を養うことが重要である。しかし各種金融商品は複雑かつ多様化しており、その中での「最適」選択は容易ではない。それ故に、効率的な資金運用（投資）を行うために基本的な理論及び手法を学ぶ。高度化し、複雑化した金融商品及び、金融市場に関する解説する。また現実の動向を、タイムリーな事件、ニュースとからめて解説していく。投資家目録での金融理論、ファイナンス理論を分かり易く解説する。多様な視点も考慮に入れて資産投資運用を自ら行えるようになることを目指す。多様なリスクの現実的な把握と対処法について議論、解説する。

到達目標

合理的な「投資行動」を自ら考えて実行するために役立つ金融証券市場の知識に加えて、リスク概念の基本的とらえ方を学び、何に投資をするべきか考察し自身で決断できるような分析力を身につける。リスクを把握し、どう対応するかを学びながら自ら考えることができるようになる。必要なリスク情報を自らの意識と労力で収集するノウハウを学びながら実践ようになる。具体的にリスクの把握と設定、そしてそれに対する留意点を定めることができる。当事者意識として、投資家マインドを理解する上にも務めることにより、実践的な行動力と決断力が高められる。]企業の財政状態、経営成績、キャッシュフロー等に関するいわゆるファンダメンタルに関する情報やデータを集計および作成し、実践的な深い分析をすることができるようになる。

提出課題

授業理解度、進捗に応じていくつか小課題を提案する。有志による提出を基本とする。基本対面講義であり、簡単な演習実験の類いは様子を見て、授業内で行う予定。進捗、理解度に応じて検討予定。その場合はその結果や分析を小課題とする予定。質問他、従来の出席票裏面の自由コメント欄のように、メールおよびブログへの書き込みなどを積極的に行ってほしい。生産的なものは、加点方式で考慮する。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

講義内で展開して解説及びブログを通じて補足的説明を行う。

評価の基準

教室講義をビデオ録画した復習教材として提供する予定。個別の出席カウントや質疑は、メール活用、個別のオンライン面談なども別途要望があれば実施予定。小課題の結果提出など進捗度理解度測定を様々な手法をつかって判断しながら実践する。最終試験代わりに、まとめたな課題レポートになる場合も有り（過去事例）。試験の場合は、試験50％+授業出席(オンデマンド視聴とメールなどで把握)30％+課題関係提出など(20％)で総合評価。メールによるコメントや質問など、授業参加度に関するものは、加点評価の予定。内容的にも有用なものは、講義内あるいはブログでで補足および解説するので、積極的参加の姿勢を受講生は持つてほしい。

履修にあたっての注意・助言他

金融、株式市場並びに投資に興味を持つようにほしい。日々の金融はじめ経済ニュースに興味をもって欲しい。不明な言葉などは、ネットでかまわないので、自分で調べてみることを強く推奨。その上で質問して欲しい。「価値を増やすという意味での、投資につながる価値に戦場になること、定量的なことを説明するような講義でなく、ここできか聞けない中身の講義をする予定。新しい視点、アプローチを啓蒙するような講義を目指す。復習のために、講義録画をYouTubeでオンデマンド教材として公開予定。

教科書

・特に定めない。					

参考図書

その他

証券市場、金融市場、その仕組みなどについて解説してある一般の入門書の種類を積極的に読んでほしい。投資指南の類の本や資料などは殆ど役立たないので勧めないが、日経ウェリタスなどの金融専門新聞などをさっと見る方が善くなる。その他適宜必要に応じて授業中に参照及び提示する。確立立そうなものは、印刷して配布あるいは、ファイルで配布。A Vコンテンツなどは、後述に現たり無いしなくてもらう。オンデマンドでの利用など方を実験、対応している。ブログ、youtubeを活用した、授業ログ（板書撮影ファイル(pdf)、音声ファイル(mp3)を復習用にアップしてきた。今回はビデオ録画講義を準備中。復習などと活用して欲しい。（授業内で詳説予定）

授業計画

1 投資と投機の違い・消費行動と投資行動の違い

予習：シラバスならびにキャンパスクロス（講義連絡）に事前に提示する講義資料を見たらうで、自分が興味を持った内容をまとめたうえで講義に出席すること（120分）
復習：講義ノート整理・復習し、授業内容の理解を深めること（120分）
2 投資の興義伝授（「投資」行動の理論と実践）
予習：シラバスならびにキャンパスクロス（講義連絡）に事前に提示する講義資料を見たらうで、自分が興味を持った内容をまとめたうえで講義に出席すること（120分）
復習：講義ノート整理・復習し、授業内容の理解を深めること（120分）

3-4 リスクの概念。リスクプロファイルの考察。（リスクとは何か）

予習：シラバスならびにキャンパスクロス（講義連絡）に事前に提示する講義資料を見たらうで、自分が興味を持った内容をまとめたうえで講義に出席すること（120分）
復習：講義ノート整理・復習し、授業内容の理解を深めること（120分）

5 金融市場の基本的理解

予習：シラバスならびにキャンパスクロス（講義連絡）に事前に提示する講義資料を見たらうで、自分が興味を持った内容をまとめたうえで講義に出席すること（120分）
復習：講義ノート整理・復習し、授業内容の理解を深めること（120分）

6 金融機関とのつきあい方他。

予習：シラバスならびにキャンパスクロス（講義連絡）に事前に提示する講義資料を見たらうで、自分が興味を持った内容をまとめたうえで講義に出席すること（120分）
復習：講義ノート整理・復習し、授業内容の理解を深めること（120分）
7 証券市場の基本的役割
予習：シラバスならびにキャンパスクロス（講義連絡）に事前に提示する講義資料を見たらうで、自分が興味を持った内容をまとめたうえで講義に出席すること（120分）
復習：講義ノート整理・復習し、授業内容の理解を深めること（120分）

8 証券会社とのつきあい方他。ファンドマネジャーの手法

予習：シラバスならびにキャンパスクロス（講義連絡）に事前に提示する講義資料を見たらうで、自分が興味を持った内容をまとめたうえで講義に出席すること（120分）
復習：講義ノート整理・復習し、授業内容の理解を深めること（120分）
9 保険の仕組みと市場
予習：シラバスならびにキャンパスクロス（講義連絡）に事前に提示する講義資料を見たらうで、自分が興味を持った内容をまとめたうえで講義に出席すること（120分）
復習：講義ノート整理・復習し、授業内容の理解を深めること（120分）

10 保険会社の特殊性。他の確率金融商品。制度について（まじり等）

予習：シラバスならびにキャンパスクロス（講義連絡）に事前に提示する講義資料を見たらうで、自分が興味を持った内容をまとめたうえで講義に出席すること（120分）
復習：講義ノート整理・復習し、授業内容の理解を深めること（120分）

11 効率的市場仮説など、市場構造及び投資家行動分析の理論

予習：シラバスならびにキャンパスクロス（講義連絡）に事前に提示する講義資料を見たらうで、自分が興味を持った内容をまとめたうえで講義に出席すること（120分）
復習：講義ノート整理・復習し、授業内容の理解を深めること（120分）

12 ポートフォリオ理論の基本（分散投資と分散投資）

予習：シラバスならびにキャンパスクロス（講義連絡）に事前に提示する講義資料を見たらうで、自分が興味を持った内容をまとめたうえで講義に出席すること（120分）
復習：講義ノート整理・復習し、授業内容の理解を深めること（120分）

13 不動産投資や商品資産投資の構造と役割

予習：シラバスならびにキャンパスクロス（講義連絡）に事前に提示する講義資料を見たらうで、自分が興味を持った内容をまとめたうえで講義に出席すること（120分）
復習：講義ノート整理・復習し、授業内容の理解を深めること（120分）

14 暗号資産（仮想通貨など）の概要と役割

予習：シラバスならびにキャンパスクロス（講義連絡）に事前に提示する講義資料を見たらうで、自分が興味を持った内容をまとめたうえで講義に出席すること（120分）
復習：講義ノート整理・復習し、授業内容の理解を深めること（120分）

15 高度な金融派生市場の役割（デリバティブ、FX、CDSなど）、フィンテックについて

予習：シラバスならびにキャンパスクロス（講義連絡）に事前に提示する講義資料を見たらうで、自分が興味を持った内容をまとめたうえで講義に出席すること（120分）
復習：講義ノート整理・復習し、授業内容の理解を深めること（120分）

講義途上における受講生からの積極的な質問や提案を求める。それらを積極的に取り上げながら講義を進める予定。

室講義をビデオ録画した復習教材として提供する予定。個別の出席カウントや質疑は、メール活用、個別のオンライン面談なども別途要望があれば実施予定。小課題の結果提出など進捗度理解度測定を様々な手法をつかって判断しながら実践する。最終試験代わりに、まとめたな課題レポートになる場合も有り（過去事例）。試験の場合は、試験50％+授業出席(オンデマンド視聴とメールなどで把握)30％+課題関係提出など(20％)で総合評価。メールによるコメントや質問など、授業参加度に関するものは、加点評価の予定。内容的にも有用なものは、講義内あるいはブログでで補足および解説するので、積極的参加の姿勢を受講生は持つてほしい。

授業形態（アクティブ・ラーニング）

○	ア：PBL（課題解決型学習）	○	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
	ウ：ディスカッション、ディベート		エ：グループワーク
	オ：プレゼンテーション		カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）			

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

投資家としての投資運用手法や商業理論を学べる。物事には、成り立ちと理由（歴史と理論）があるわけで、それを理解することによって納得できれば、リスクにどう対応すべきかの代替案が考えられるようになる。評論家でなく投資家のマインドと行動が理解できるようになる。経営戦略における投資選定決定に関連する。会計コースとの関連では、簿記・会計の学問的知識を身に付け、企業の財政状態、経営成績、キャッシュフロー等に関する情報を作成、分析が身につきて実践できるようになる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

メールやyoutube(講義録画)を活用した授業内容の発信及び質問他への受付。適宜解説。

実務経験の有無及び活用

外国銀行及びシンクタンク勤務経験があり、実業界、実社会での要請や必要要件の理解認識を持っている。本当の「実学」教育訓練の実践を目指し、実行力、思考力の醸成、育成を目指している。

備考